

黙示録20章4-6節 「第一の復活、第二の死」

1A 罪による死

- 1B 神との離別
- 2B 肉体との離別
- 3B 地の呪い
- 4B 神の住まいからの追放

2A 第一の復活

- 1B 御霊による新生
- 2B からだの復活
- 3B 地の回復
- 4B 神の都の住民

3A 第二の死

- 1B すべての死
- 2B 死後のハデス
- 3B 最後の審判
- 4B ゲヘナ

4A 罪と死からの救い

本文

黙示録 20 章を開いてください。私たちの聖書通読は、前回 19 章まで来ました。午後に 20 章全体を一節ずつ読みますが、今朝は 4-6 節をお読みします。「⁴ また私は多くの座を見た。それらの上に座っている者たちがいて、彼らにはさばきを行う権威が与えられた。また私は、イエスの証しと神のこたばのゆえに首をはねられた人々のたましいを見た。彼らは獣もその像も拝まず、額にも手にも獣の刻印を受けていなかった。彼らは生き返って、キリストとともに千年の間、王として治めた。⁵ 残りの死者は、千年が終わるまでは生き返らなかった。これが第一の復活である。⁶ この第一の復活にあずかる者は幸いな者、聖なる者である。この人々に対して、第二の死は何の力も持っていない。彼らは神とキリストの祭司となり、キリストとともに千年の間、王として治める。」

この中に、「**第一の復活**」という言葉と、「**第二の死**」という言葉が出てきますね。今朝、学ぶのはこの箇所です。私たちには、いのちがないところにいのちが芽生えること。そして、死というのは、年老いて死ぬことだけでなく、その後があること、について見ていきます。

もし、終わりの日について「いのち」や復活に基づいて描いたのが、C.S.ルイスの「ナルニア国物語」です。そこは、初め冬で雪が降っているところから始まっています。けれども、それは魔女が

支配しているからであり、そこはアダムの子孫が支配する時には解放される、自由にされるという言い伝えが広がっていました。そして、その解放には獅子、ライオンであるアスランが到来することによって実現します。その到来が近づくにつれて、雪解けが起こっています。春の兆しがあります。そしてついに、雪は完全に解けて、魔女とその軍勢が戦うのですが、アスランの到来によって完全に滅びます。映画ですと、そこに現れる自然が、例えば、木々が冬の中から春になる時に、だんだん解放されて、いのちを吹き返す姿が鮮やかに描かれています。

これは、著者である C.S.ルイスの頭だけで思い描いた空想ではないのです。聖書に書かれている、キリストの到来、それにともない被造物の解放を題材にして創作したのです。キリストが来られることによって、栄光の姿に変えられたキリストにある人々も共に来て、悪の勢力にキリストが戦われます。そして、これを滅ぼして、この地上に神の国を建てられるのです。その時に、被造物も解放されて、かつてのエデンの園の時のようになります。「ロマ 8:21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。」

ナルニア国物語だけでなく、わずかですがその解放の姿を前もって垣間見た時がありました。コロナ渦が始まって間もなくのことです。そこで人々の行動が著しく制限されました。すると、これまで見ることのなかった自然界が花開いたのです。珍しい動物が、普通に人々の住んでいるところに現れます。空気が鮮やかにきれいになりました。

また、私はその時に聖地旅行を企画していましたが、それを延長せざるを得ませんでした。しかし、その時のイスラエルの姿は驚くべきものでした。ガリラヤ湖はいつも水不足に悩んでいましたが、あふれるばかりに満水になっています。珍しい野生動物が道ばたに現れます。そして何よりも、死海に草木が咲き誇ったのです！死海の周辺は、ユダの荒野です。まさに、荒野が緑になり、花が咲くというイザヤの預言がその通りになっていました。このようにして、被造物が解放されるということは、決して決して絵空事ではなく、現実、キリストが来られる時に成し遂げられるのです。

1A 罪による死

話を本文に戻しますと、「**第一の復活**」という言葉、また、「**第二の死**」から救われるということが書かれています。これは、世界に、また人々に死が広がっているというのが前提です。死が支配しているところから、解き放たれて復活し、また第二の死から免れるということです。

1B 神との離別

死とは何か？私たちは今、黙示録を学び、その後、創世記に戻りますが、創世記はすべての始まりを教えています。死の始まりを教えています。そこを見ると、死がどのようにして始まったのかを、まざまざと見ることができます。

それは、ことごとく「分かれてしまう」あるいは「離れる」と言ってよいでしょう。離別する、と言ってもいいです。主は、初めに造られたアダムに対して、善悪の知識の木からの実を取って食べると、必ず死ぬと言われました。けれども、アダムとエバがその実を取って食べた時に、彼らはその場で倒れて死んだ、ということは起こりませんでした。その代わりに、自分たちが裸であることに気づいたのです。そして、主が園の中を歩かれた時に、隠れたのです。ここが、起こった変化です。

つまり、主なる神と一緒にいることができなくなりました。主の言われることに聞き従わない結果、主との関係が絶たれてしまい、その罪が彼らと神を引き離してしまったのです。これが死の始まりです。神は霊であられるので、これを霊的な死と呼んでよいでしょう。パウロは、エペソ人への手紙で、「あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり」と言っています(2:1)。

2B 肉体との離別

それから、主はアダムに対して、「あなたは、土の塵に変える」と言われました。「創 3:19 あなたは、顔に汗を流して糧を得、ついにはその大地に帰る。あなたはそこから取られたのだから。あなたは土のちりだから、土のちりに帰るのだ。」このようにして、肉体も潰えます。

人は、土地のちりから神が身体を造られました。そして、神が息を鼻に吹きかけて、生きたものとなりました。つまり、人は、神の息による霊魂があり、そして体があるのです。身体が衰え、尽き果てる時に、魂が身体から離れます。本来、一つになっているべき魂と身体が、切り離されます。皆さんの中で、人が息を引き取った瞬間、看取った方はいらっしゃいますか？私は、祖母が亡くなってすぐに彼女の遺体を見ました。その身体はあるのですが、何か大きなものを失っていました。それが魂です。

3B 地の呪い

さらに、大地そのものにも、死がもたらされます。「創 3:18 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。」大地が、そこにいのちを与える神から引き離されてしまいました。今も、主は大地を豊かにしておられます。けれども、初めに造られた時に比べれば、そこには、いわば「うめき」があります。本来あるべき姿からは、離れてしまっているのです。

4B 神の住まいからの追放

そして、人は、主の住まわれるところから出ていかなければいけませんでした。「創 3:23 神である【主】は、人をエデンの園から追い出し、人が自分が取り出された大地を耕すようにされた。」主が住んでおられるエデンの園から出ていきました。

2A 第一の復活

このようにして、人が罪を犯したことによって、世界に死が入ったのです。「ロマ 5:12 こういうわ

けで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に——」そこで、神は、そこから復活の働きを始められます。初めご自身のものであった、これら被造物を、罪と悪魔に売り渡されてしまった被造物を、買い戻す働きを始められます。キリストの流された血によって、そのいのちの代価によって、ご自分のところに奪い返されるのです。それが、いのちの働きです。

1B 御霊による新生

まず、人の霊が神から引き離されてしまったことに対して、神ご自身の霊によって新たに生まれさせます。イエスが、ニコデモに教えられました。「ヨハ 3:5-6 まことに、まことに、あなたに言います。人は、水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。6 肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」死ぬことが、引き離されると先ほど話しました。では、新しく生きることは、逆に「つながる」ことを意味します。神の御霊によって、人の霊が神と結ばれるのです。

人は、お母さんから生まれても、それだけでは不十分です。なぜなら、罪をもって生まれているので、神から霊は引き離されているからです。だから、身体は生きていますが、霊が神から離れていて、死んでいるのです。再び、新たに生まれないとはいけません。それが、イエスを信じて、罪をその流された血によって赦していただき、そして神の霊によって洗われて、新しくされます。

イエスを信じ、御霊によって新しくされることによって、人は必ず変えられます。神の思いがその人の心に置かれるからです。思い出すのは、共に聖書を学んでいた兄弟ですが、イエスを信じる告白をしました。特段に、大きな感激がありませんでした。いつもと変わらなかったそうです。ところが、テレビを見ていると、「これ、おかしいぞ。間違っている！」と思ったそうです。これまで普通に、楽しんでみていた番組の内容について、おかしい、いけないことだと思ったそうです。そんなこと自分が思うなんて、考えられなかったのですが、そうです、心に大きな変化が与えられていました。神の霊がその人のうちに住み、自分の霊が御霊と一つになって、生かされているからです。

2B からだの復活

そして人は、霊が新しくされ、いのちが与えられるだけでなく、この身体も、死んでもよみがえります。水のバプテスマについての教えが、ロマ 6 章にあります。バプテスマは、キリストの死にあずかるバプテスマであり、キリストがよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むようになっていることを教えています。それだけではありません、「6:5 私たちがキリストの死と同じようになって、キリストと一つになっているなら、キリストの復活とも同じようになるからです。」キリストが復活されたのは、そのからだがよみがえりました。弟子たちに現れた主は、霊ではありませんでした。共に食事をしました。この方の裂かれた脇に、トマスは手を入れることができました。その打たれた釘の跡が手に残っていましたが、そこに指を入れることができました。

同じように、私たちも、この身体が朽ちても、よみがえるのです。主がマルタに言われました。「ヨハ 11:25-26 イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は死んでも生きるのです。26 また、生きていてわたしを信じる者はみな、永遠に決して死ぬことはありません。あなたは、このことを信じますか。」」私たちが、キリスト者の墓に行く時は、そこで死者の霊に拝みに行きません。この墓からやがて出て来て、復活して、天から戻ってこられるイエスのところに引き上げてくださると信じているのです。

3B 地の回復

そして、先ほど話しましたように、やがてこの地も神のいのちにあずかります。すべてが、主のものとなり、自然界が回復するのです。荒野が野原となるような植物の変化だけではありません。動物界も変わりますよ。「イザ 11:6-9 狼は子羊とともに宿り、豹は子やぎとともに伏し、子牛、若獅子、肥えた家畜がともにいて、小さな子どもがこれを追って行く。7 雌牛と熊は草をはみ、その子たちはともに伏し、獅子も牛のように藁を食う。8 乳飲み子はコブラの穴の上で戯れ、乳離れた子は、まむしの巣に手を伸ばす。9 わたしの聖なる山のどこにおいても、これらは害を加えず、滅ぼさない。【主】を知ることが、海をおおう水のように地に満ちるからである。」

4B 神の都の住民

そして、人が神の住むところから追い出された話を先にしましたが、これも回復します。まず、御霊によって私たちは生まれましたが、私たちのからだは、聖霊の住まわれる宮となっています。

そして、終わりの日、私たち自身が神の住まわれる都の住民となります。気づけば、そこには太陽の光がありません。なのに、都は光り輝いています。どこにいるのか？ 実に、神と子羊ご自身の御座のあるところに自分たちが入れられているのです。「22:3-5 もはや、のろわれるものは何もない。神と子羊の御座が都の中にあり、神のしもべたちは神に仕え、4 御顔を仰ぎ見る。また、彼らの額には神の御名が記されている。5 もはや夜がない。神である主が彼らを照らされるので、ともしびの光も太陽の光もいらない。彼らは世々限りなく王として治める。」

これらが、「**第一の復活**」と呼んでいる中に含まれている事柄です。第一と呼んでいるのは、後で、第二の復活と呼ぶべき、最後の審判を受けるためによみがえる話が出てくるからです。主のいのちにあずかる復活を、第一の復活と呼びます。これは、キリストの復活から始まりました。そして、キリストを信じる者たちがこの復活にあずかります。教会は主が天から降りて来られる時に引き上げられますが、その後、大患難の時にも、聖徒たちは殉教を遂げて死にます。しかし、最後、主が地上に戻ってこられる時に復活するのです。それで、第一の復活が完成します。キリストの復活から始まり、携挙の時にキリスト者がよみがえり、患難の時代に殉教した聖徒たちは、キリストの地上再臨の時によみがえります。

3A 第二の死

次に、「**第二の死は何の力も持っていない**」と書かれている部分を見たいと思います。「力」と書いてあるように、重力の法則のように、避けられない、抗えない力がありますが、その力から救われているということです。

1B すべての死

人はすべてが死にます。これが第一の死です。キリストを信じた者も、この肉体の死から免れることはできません。しかし、復活して、主のもとに行くことができます。

2B 死後のハデス

しかし、それだけではないんです。死んだら、すべてが終わる。意識も何もなくなる、ということではありません。聖書ははっきりと、死んでも、その後の世界があることをはっきりと示しています。エゼキエルの預言には、死んだ後に大国の指導者たちが、陰府の世界にいる幻が、生々しく示されています。

そして、イエスご自身が、金持ちとラザロのことを語られました。死んだら終わりではないのです。「ルカ 16:22-24 しばらくして、この貧しい人は死に、御使いたちによってアブラハムの懷に連れて行かれた。金持ちもまた、死んで葬られた。23 金持ちが、よみで苦しみながら目を上げると、遠くにアブラハムと、その懷にいるラザロが見えた。24 金持ちは叫んで言った。『父アブラハムよ、私をあわれんでラザロをお送りください。ラザロが指先を水に浸して私の舌を冷やすようにしてください。私はこの炎の中で苦しくてたまりません。』」ここは陰府、ギリシア語ではハデスと呼ばれます。最後の審判を受けるのを待つ、拘置所であります。

3B 最後の審判

聖書でははっきりと、「ヘブル 9:27 人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている」と言っています。このことを、人々は薄々、知っています。自分たちが、この地上で正しく裁かれていないことを知っているからです。「ロマ 1:32 彼らは、そのような行いをする者たちが死に値するという神の定めを知りながら、自らそれを行っているだけでなく、それを行う者たちに同意もしているのです。」

先週、テレビ会社が、会社ぐるみで、女性社員の性暴力に加担していたことが発覚したニュースがありましたね。ある人が、SNS で感想をもらっていました。性暴力を働いた当人だけでなく、会社の幹部も地獄に行くべきだ、と。そうです、ただ肉体が死ぬだけでは裁きが足りないと思っています。そして、人間が行う裁きでは足りないことを知っています。私たちはこの地上で裁判所に出頭しなくとも、すべての人が死後に裁判所に出頭するのです。

その時に、陰府、あるいはハデスにいる者たちが復活します。「20:13 海はその中にいる死者を出した。死とよみも、その中にいる死者を出した。彼らはそれぞれ自分の行いに応じてさばかれた。」永遠のいのちのためによみがえるのではなく、永遠に裁かれるためによみがえるのです。

4B ゲヘナ

そして、その行いに応じて、ゲヘナ、すなわち火と硫黄の池に投げ込まれます。「20:14 それから、死とよみは火の池に投げ込まれた。これが、すなわち火の池が、第二の死である。」今、読んだように、これが第二の死です。主が住まわれる都に入ることができず、外の暗やみに追い出されています。

黙示録 21-22 章には、永遠の都エルサレムの幻があります。ここに、ダメ押しに、子羊のいのちの書に名の書き記されていない者は、そこに入ることができないと強調されています。「21:7-8 勝利を得る者は、これらのものを相続する。わたしは彼の神となり、彼はわたしの子となる。8 しかし、臆病な者、不信仰な者、忌まわしい者、人を殺す者、淫らなことを行う者、魔術を行う者、偶像を拝む者、すべて偽りを言う者たちが受ける分は、火と硫黄の燃える池の中にある。これが第二の死である。」その他、21 章 27 節、22 章 15 節にも書いてあります。

4A 罪と死からの救い

このようにして、私たちには、神とキリストにある復活のいのちの道と、罪と死とのさばきの道の二つが置かれています。いのちについては、「ただで、この水が飲めるよ」という呼びかけが、黙示録の最後にあります。「22:18 渇く者は来なさい。いのちの水が欲しい者は、ただで受けなさい。」神の恵みによって、第二の死から救われることができます。そして、第一の復活にあずかって、永遠のいのちを得るのです。